

# 船隊整備にファンド活用

## 第一汽

第一中央汽船は「船舶するよりも財務の負担が投資ファンド」を通じて「少なくて済む」。

船隊整備に乗り出す。独立系投資顧問、アジア向けに鋼材や穀物のカー・シブ・インベス輸送需要が伸びており、トメント（東京・中央）月内にもファンドの資金と連携する。建造資金はで中型ばら積み船2隻、金融機関などが出資する（計50億円相当）を発売見通し。今回発売する船。就航後の運賃収入（積載重量3万7000をファンドに還元する仕0.1級）は2011年秋組みで、自己資金で建造から7年間の輸送契約が

## 建造資金50億円を調達

固まっている。安定した資本倍率は1.8倍と商運賃収入をファンド側に船三井（1.2倍）などに比べて高く、船舶向けに還元できる見込み。

現在の会計基準ではファンドを通じて船舶を賃借すると資産・負債を帳簿計上せずに済む。第一汽は運航規模を今後3年間で200隻（2010年3月期末時点は162隻）に増やす計画で、投資総額は3000億円規模に達する。足元の負債にも広がってきた。

船舶投資ファンドは日本郵船や川崎汽船が1隻100億円規模のタンカーの整備などに活用した例がある。新興国の経済成長を背景に投資対象が準大手海運のばら積み船